

## 国民の議論なしのロシアとの戦争

【訳者注】国家が外国（超大国）に対して、宣戦布告直前のようなところまで大規模な準備を進めるには、たとえウソであろうと、国民に事情を説明して、国民の支持を得ようとするのが普通であろう。それをしないということは、これが国家の戦争でなく、少数のグローバル・エリートのための戦争であって、自国民も敵の一部だということを示唆している。つまり国民に議論させないのは、それが危険だからである。ここで言われているように、政府と国民が団結しているロシアとは正反対である。

これを紹介しようと思ったのは、この内容（40分ほどの対談の要約）の重要さもさることながら、下に示した読者のコメントに注目したからである。このコメントの主は、ワシントン政府の罪深さとその本質を徹底的に理解している。（アメリカの受ける攻撃の中に戒厳令が入っている。）そして自分が、アメリカ生まれのアメリカ人でありながら、世界が平和になるためなら、この国が潰されてもかまわないと言っている。これが本当の愛国者であり、本当の平和愛好者であろう。このコメントへの賛成票がトップになっている。ということは、アメリカにも、無批判に政府を支持する、自分がよければよい人々と共に（前の記事「どこに問題があるのか…」参照）、このような確かな判断をする純粋で、勇気をもつ人々も多いということである。このような人々が少しでもアメリカにいる間は、アメリカは滅びない、アメリカはその偉大さを必ず取り戻す、と私は言いたい。

Stephen F. Cohen

June 11, 2016, Information Clearing House



NATOは、軍事力増強と、ロシア国境での“演習”を続け、モスクワは“対抗措置”を取る一方で、アメリカの主流メディアは沈黙を続けている。

<http://audioboom.com/channel/johnbatchelor>

“Anaconda 16 on the Russian Frontier.

Stephen F. Cohen, NYU. Princeton,

EastWestAccord.com”（現在、中ほどまでスクロールダウンした右側）

オンライン誌 Nation の（音声）寄稿編集者 Stephen F. Cohen と John Batchelor は、新しい米露冷戦について、週に一度の討論を続けている（前回掲載分は <http://thenation.com/>）。今回、再び扱っているのは、ロシアの西側国境への、NATO の大規模な軍事的集結で、彼らは再び、陸、海、空に展開しており、現在は“アナコンダ - 2016 作戦”と称して、3 万以上のアメリカ軍と他の NATO 軍が、ポーランドで“演習”を行っている。

バッチェラー（聞き役）は、長期アメリカに在住している 3 人のロシア人を含む、事情通のアナリストたちが出している、現実の戦争が迫っているかもしれないという高度警戒の警告が、どれくらい現実性のあるものかを訊ねている。コーエン（コーヘン）は、この最悪のシナリオは、いくつかの理由から、排除することはできないと考えている。NATO の大集結は単なる挿話でなく、だんだん数を増やし恒久的なものとして、7 月のワルシャワ NATO サミットで批准されるように意図されている。これほどの敵対する軍隊が、ロシアの西側国境に——そして今はバルト海から黒海にかけて——集結したことは、1941 年のナチス・ドイツによる侵攻以来、例がない。（NATO 軍の中にドイツ軍の一部が含まれていることは、ロシアでは、あの記憶を目覚めさせるものだ。）アメリカに主導の NATO の提出する唯一の説明は、ウクライナにおける“プーチンの侵略”だが、それは 2 年以上前のことだった。（彼が今、小さなバルト諸国とポーランドを脅迫しているという主張は、明らかに根拠のないものである。）当然のことだが、コーエンによれば、モスクワは、自分自身の通常の戦略的（たぶん核を含む）軍隊を自国の西地域に補強しつつあり、2 強大国を、キューバ・ミサイル危機の時のように、向き合わせている。偶発的な軍事行動を別にしても、ウクライナやトルコやシリアに、さまざまな罣が仕掛けられることもありうる。

驚くべきことに、この不気味に迫ったロシアとの戦いの可能性は、アメリカの主流メディアではほとんど報道されず、全く議論の対象になっていない。バッチェラーもコーエンも、このようなメディアの報道管制あるいは無関心の前例は、思い出せないと言う。コーエンによると、ロシアでは状況は全く別で、NATO 軍の増強が、たとえば、プライムタイムのテレビ番組で議論されている。現実の脅威があるか否かについて意見はさまざまだが、一つだんだん大きくなってきた意見は、「大戦争のにおいが漂ってきた」、そしてプーチンは国内外でその準備を十分にしていない、というものである。アナロジーとして、あるロシアのジャーナリストは、2014 年 2 月にキエフで、ロシア寄りの前ウクライナ大統領が追放されて、現在の

危機が始まったのに、何ら軍事介入をしなかった、と公的にクレムリンを批判した。要するに、プーチンもまた、NATO の増強にどう反応すべきかを決定するのに、一般の意見を考慮しているということである。

#### [読者のコメントの一例]

邪悪な米大統領が、EMP（電磁パルス）攻撃や、人工操作の流行病や、巨大地震や、戒厳令などを警告していることを考えれば、ロシアに対する米/NATO の邪悪な宣戦布告の是非について、なぜ全く議論がなされないのか理解できる。

ロシアは戦争をしない。アメリカはしたがっている。

よろしい。だからこそロシアが世界の希望なのだ。

私はアメリカに住むアメリカ人ではあるが、残りの世界が平和に暮らせるのなら、この国が潰されてもかまわないと思っている。